

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

雨やどり

晴天続きで乾ききった田畑を潤す久しぶりのまとまった雨になりました。梅雨入りも近いのかな。

映画のヒットで話題になった「三丁目の夕日」。西岸良平さんの原作で、昭和49年の連載開始のころは「夕焼けの詩」という名前でした。その第18集に「雨やどり」という作品があります。

鈴木一平くんは4年3組で担任は山村先生という女性の先生です。梅雨どきのホームルームの時間に先生は「皆さん雨降りは好きですか。」と聞きます。一平くんやサブちゃんやユウちゃんたちは「きれい。好きなわけない。」と言いますが、学級の中で雨宮由美という子と三沢大助という子の二人だけは「雨の日は好き。」とこたえます。「変なの、おかしいんじゃないの。」と学級は騒然とします。

雨宮由美さんが雨が好きなのは、彼女の家が傘屋さんで、雨が降ると雨傘がよく売れ、お父さんやお母さんのご機嫌がいいからでした。

三沢大助くんは、お父さんが大工さんで、雨が降ると仕事が休みになり遊んでもらえるので雨の日は好きでした。雨の日が続くとお父さんは毎日家において、大助くんは授業が終わると大急ぎで下校しました。しかし、何日かすると、にこにこしていたお父さんがため息をついたり、パチンコ屋さんに行ってしまうて家にいなかったりするようになりました。大工さんが休みということは、仕事がなく収入がないということだったのです。大助くんは次第に雨が上がるのを心待ちにするようになり、ほかのみんなと同じように浮かぬ顔で登校するようになりました。梅雨が明け、お父さんが仕事に出かけるようになって、大助くんも以前のように元気になりました。

学級の子どもたちは同じ背格好をしていて、同じ服を着ているので、ついつい私たちは、皆同じように思えてしまいます。しかし、子どもたちは、それぞれ違った家庭から登校してきます。中にはランドセルに重たい荷物を背負って登校してくる子もいます。「ランドセルの荷物を軽くして、おみやげの一個でもポンと入れてやれるような担任になれ。」と言われたことがあります。

雨降りは嫌いだけれど、白瓜やカボチャなどが大きくならないので、雨が降らないと困ります。

